

■11月16日

スターフライヤー、経営合理化案、希望退職30人、釜山線運休、機材9機に縮小

スターフライヤーは15日、経営合理化計画を発表した。子会社を含めた従業員約740人を来年度、80人程度削減するほか、北九州—韓国・釜山線の運航を来年3月29日で休止する。また、運用する機体は1機減らして9機に縮小。一連の合理化で、年間11億円超のコスト削減を見込んでいる。読売新聞などが報じた。

計画によると、削減する従業員約80人のうち30人は本社や現場の管理部門の社員から希望退職で募り、残りは定年退職や契約社員の契約期間終了などに伴う自然減で達成する。

また、搭乗率が低迷している釜山線を休止することで、現在、エアバスA320型機(定員は144人か150人の2種類)を10機運用している体制を9機とし、維持費や機体整備費などを抑える。北九州空港での他社の運航支援などの受託業務の効率化も進める。

一方、福岡県と北九州市などで構成する「北九州空港利用促進連絡会」は今年6月までに補助金として7650万円を交付しており、運航休止の決定を受けて返還請求を検討する。

(読売新聞 地方版)11/15

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20131115-OYS1T00753.htm> (->

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20131115-OYS1T00753.htm>)

(福岡放送)1/15

<http://news24.jp/nnn/news8643588.html> (-> <http://news24.jp/nnn/news8643588.html>)

(スターフライヤープレスリリース)11/15

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131115060621.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131115060621.pdf>)

政府、カンボジア・ラオスからの旅行者、数次ビザ発給へ、航空路線開設も検討

(時事ドットコムによると)

政府は15日、カンボジアとラオスからの旅行者に対するビザ発給要件を緩和し、3年以内なら何度でも入国できる「数次ビザ」の発行を認める方針を決めた。年内にも実施する。また、日本とカンボジア、ラオスそれぞれを結ぶ航空便の開設も検討する。

(時事ドットコム)11/15

<http://www.jiji.com/jc/c?g=pol&k=2013111500828> (-> <http://www.jiji.com/jc/c?g=pol&k=2013111500828>)

スカイマーク、東証1部指定替えの承認

スカイマークは15日、東京証券取引所より、マザーズから1部への指定替えの承認を得たと発表した。予定日は11月22日。

(ロイター)11/15

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0J01MQ20131115> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0J01MQ20131115>)

(スカイマークプレスリリース)11/15

http://www.skymark.jp/ja/company/investor/131115_ir.pdf (-> http://www.skymark.jp/ja/company/investor/131115_ir.pdf)

米子空港、スカイマーク乗り入れで駐車場増設

鳥取県は、12月20日にスカイマークが米子空港に新規乗り入れすることに伴い、同空港周辺の土地2か所に計269台分の駐車場を増設する方針を決めた。今年度一般会計補正予算案に、国有地の購入費など2250万円を盛り込ん

だ。

県によると同空港周辺の駐車場は現在682台分。スカイマークの成田、神戸、茨城の新規各路線の就航で駐車場の不足が見込まれるため、同空港周辺の県有地(2500平方メートル、126台)と、国と県が所有する旧県道の敷地(4000平方メートル、143台)を整備し、駐車場とするという。就航に合わせて12月20日から供用する。

(読売新聞)11/15

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20131114-OYT8T01332.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20131114-OYT8T01332.htm>)

(日本海新聞)11/15

<http://www.nnn.co.jp/news/131115/20131115006.html> (-> <http://www.nnn.co.jp/news/131115/20131115006.html>)

アジアナ航空、那覇—釜山線初便就航、搭乗率75%を目指す

アジアナ航空は14日、那覇—釜山線を定期就航させた。同社にとって那覇—ソウル線に次ぐ定期路線。また沖縄と釜山を結ぶ定期便の就航は初めて。使用機材はエアバス320(155席)で、火・木・日の週3便で運航する。初便の那覇着には83人が、復路の韓国行きは113人が搭乗。同沖縄支店によると、搭乗率75%を目指す。

2013年度上半期に沖縄を訪れた韓国人観光客は前年同期比187.4%増の3万6500人。アジアナ航空のソウル線増便などで、大幅に増加している。

(沖縄タイムス)11/15

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-15_56721 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-15_56721)

(琉球新報)11/15

<http://mainichi.jp/area/okinawa/news/20131115rky00m020004000c.html> (-> <http://mainichi.jp/area/okinawa/news/20131115rky00m020004000c.html>)

航空各社、沖縄路線、10月搭乗実績、利用者数、前年同月比3.3%減

沖縄路線に就航する航空6社(除くLCC)は14日までに10月の搭乗実績をまとめた。全提供座席数は24.4%増の191万6649席、利用者数は、台風の影響による欠航便が相次いだため前年同月比3.3%減の126万7336人だった。

沖縄タイムスの取り纏めた航空各社別は以下の通り

- ・全日空は2.9%減の58万730人。提供座席数は3.5%増の87万3197席。183便が欠航した。
- ・日航は8.7%減の25万9745人。提供座席数は7.8%減の35万7298席。52便の欠航と、羽田—那覇線の減便が要因。
- ・JTAは10.9%減の22万2666人。提供座席は5%減の33万310席。85便が欠航したほか、那覇—宮古線を減便した。
- ・RACは7.4%減の2万9040人。提供座席は3.3%減の4万3605席。94便が欠航し、北大東線などに影響があった。
- ・スカイマークは21.1%増の14万2677人。提供座席は31.4%増の24万6738席。石垣関連の新路線が全体数を引き上げた。
- ・ソラシドは17.4%増の3万2478人。提供座席は27.7%増の6万1152席。20便が欠航となったが、神戸線の新設で旅客数、提供座席数ともに前年を上回った。

(沖縄タイムス)11/15

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-15_56722 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-15_56722)

沖縄県、2013年上半期、入域観光客数、前年同期比45%増の41万人

沖縄県は15日、2013年4～10月の海外からの入域観光客数が前年同期比45%増の41万6400人となったと発表した。年度ベースで過去最高だった12年度1年間(38万2500人)の実績を7カ月で上回った。航空路線の拡充が寄与し、空路による観光客増加が目立った。日経が報じた。

国別では、台湾からは67%増の19万7700人、韓国からは2.7倍の4万1400人となった。香港からもほぼ5割増の5万9800人。

(日経)11/16

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO62659170V11C13A1LX0000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO62659170V11C13A1LX0000/>)

(沖縄県統計)11/15

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/statistics/tourists/h25-10tourists.html> (->

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/statistics/tourists/h25-10tourists.html>)

エバー航空、新潟—台北線運航再開を正式発表

エバー航空は13日、12月4日より新潟—台北線の運航を再開すると正式に発表した。使用機材はMD90 (ビジネス12席、エコノミー140席)、水・土の週2便で運航する。

(エバー航空プレスリリース)11/13

http://www.evaair.com/ja-ip/news-releases/2013/KIJ-TPE_Route_start.html?filter (-> http://www.evaair.com/ja-ip/news-releases/2013/KIJ-TPE_Route_start.html?filter)=

ボーイング、中東の航空会社、2610機の需要予測、次の20年

(レスポンスによると)

ボーイングは14日、中東の航空会社が次の20年間に2610機の新たな航空機を必要すると予測し、その取引金額が5500億ドルに達すると発表した。

ボーイングのカレント・マーケット・アウトルック(CMO)によると、地域の航空会社の世界的なネットワークの優先権や連携、パートナーシップなどを反映し、『ボーイング777』や『787ドリームライナー』といった長距離飛行及びツイン・アイルの航空機が、中東の注文の軸になると見ている。

ボーイングの予測によればツイン・アイル航空機は、これから20年間に納入される地域の新しい航空機の半分以上を占め、世界的な標準である24%を大きく超えている。『ボーイング737』といったシングル・アイルの航空機は2032年までの地域の納入の47%を占め、『ボーイング747』といった大型航空機は10%の要求があると予測している。

(レスポンス)11/15

<http://response.jp/article/2013/11/15/210788.html> (-> <http://response.jp/article/2013/11/15/210788.html>)